

# 「いたずら」は子どももの 自発性を育てる

うちの子どもは「いい子」で聞き分けがよく、子育てが楽で助かるとお母さんから聞くことが時々あります。果たして手がかららない子どもが「いい子」なのか考えてみましょう。



先生のご紹介

増田 彰則

心療内科 増田クリニック

PROFILE

鹿児島市・増田クリニック院長。さつま町出身。内科学、心療内科を専攻。中でも疲労、痛み、うつ病、不登校、小児心身症、神経症などが専門です。

生まれてきた時、赤ちゃんは泣くこと以外自分で何もできません。泣くことでお母さんにお腹がすいた、眠くなつた、オムツが濡れて気持ちが悪いと訴えます。お母さんは、赤ちゃんの不快感を取り除いてあげるために無条件に応えてあげ、そこに赤ちゃんとお母さんの間に特別な絆、愛着が育っていきます。

もし赤ちゃんが泣いている時に、お母さんが応答しないで放っておいたら、どうなるでしょうか。赤ちゃんはだんだん泣かなくなり、そうなるとお母さんは、おとなしくて「いい子」のように思ってしまうかも知れません。おとなしい赤ちゃんは、あきらめて自己主張ができない状態に追い込まれてしまっているのです。それが続くとお母さんとの間の情緒的な結びつきが、薄れていくこととなります。

## 「いたずら」はいい子

ハイハイができるようになると、あちこち移動して目に入る物をさわったり、壊したり、破ったりする「いたずら」が出てきます。この時、いたずらは「悪い子」がすることとして怒ったり、強制的にやめさせようとする赤ちゃんの自発性を抑えてしまふこととなります。「いたずら」

は、自発性にもとづく好奇心の現れです(1)。

児童心理学では、「いたずら」は探索欲求にもとづく行動と言われています。いたずらを通して学習意欲が高まると共に、何事にも集中して積極的に取り組む素地ができる重要なものです。乳幼児期から学童期の「いたずら」は、自発性のある「いい子」の姿です。そして、自発性の発達の良い子どもほど、いたずらも盛んだと言えます。



「いたずら」は親や他人に頼らず、子ども自身で考えだしてすることであり、その中に創造性の芽生えが生まれてきます。自発的で創造性の豊かな子どもに育てるためには、「いたずら」をできるだけ許容できるおらかな心をお父さん、お母さんが持つことが必要です。

## 「反抗」は自発性の現れ

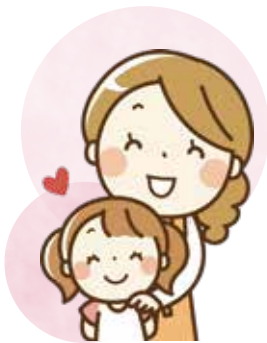
2〜3歳になると第一反抗期が現れ、お母さんが「..しなさい」と言

うと「イヤ！」と答えることが多くなります。反抗は自発性が順調に発達している「よい子」の姿です。しかし、手のかからない「いい子」は、親の顔色や機嫌を伺って反抗できず、我慢することが多くみられます。その結果、幼稚園や学校でも自己主張ができず周囲との交流に消極的になり、登校をしづらようになります。このようになる素地は、乳幼児期に自発性が育っていないかに影響されます。

子どもは手がかかるのが普通です。手がかかることはそれだけ自発性が強く、自己主張して自己実現しようとしている姿です。それが「いたずら」に現れます。「いたずら」には子どもが成長する宝が隠されているのです。

## 参考文献

(1)「心の基地」はおかあさん 平井信義著 新紀元社



ネット・ゲーム依存症の家族会…毎月第3木曜日/参加料1回1,000円  
時間:10:00~12:00  
月1回の、ネット・ゲーム依存の子どもをかかえた親の会です。  
依存についての知識と対応の仕方を学びます。参加希望の方はお電話ください。  
【場所】ケアサポート清滝 【お申込】099-201-3600

増田クリニック  
携帯版HPに  
アクセス  
できます ▶



[http://www.myclinic.ne.jp/masuda\\_cli/pc/](http://www.myclinic.ne.jp/masuda_cli/pc/)

増田クリニック

TEL. 099-219-1155

〒892-0845

鹿児島県鹿児島市樋之口町2-24

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	○	○	/	○	○	○	/
14:30~18:30	○	○	/	○	○	○	/

受付時間：午前 8:30~12:00  
午後14:00~18:00

休 診：水・日・祝・お盆・正月